

当院 NST の急性期医療における実績と課題

○太田 有希子¹⁾ 見田野 直子¹ 高橋 陽子¹ 平野 郁子² 渡邊 美鈴²
中島 崇暁³ 飯島 仁美⁴ 谷崎 義生⁵ 美原 盤⁶

- 1) 脳血管研究所美原記念病院 看護部
- 2) 脳血管研究所美原記念病院 栄養科
- 3) 脳血管研究所美原記念病院 リハビリテーション科
- 4) 脳血管研究所美原記念病院 検査科
- 5) 脳血管研究所美原記念病院 脳神経外科
- 6) 脳血管研究所美原記念病院 神経内科

【はじめに】当院の栄養サポートチーム(NST)は、平成17年9月から稼働し、嚥下障害を有する患者の初期評価から栄養摂取方法の選択をシステム化し、早期経口摂取に積極的に取り組んでいる。そこで今回、10年間のNST活動における経口摂取への取り組みの実績について調査したので報告する。

【方法】①平成17年9月から平成28年3月までの急性期病棟脳梗塞・脳出血入院患者を対象に入院から経口開始までの日数、および摂食機能療法算定のべ件数を調査した。②平成26年度の脳梗塞・脳出血患者のうち、経管栄養から栄養補給を開始し、経口摂取に移行した患者数と、経管栄養から経口摂取に移行するまでの期間を調査した。

【結果】①平成17年度から19年度は、経口摂取開始までに4日以上要した割合が対象患者の約20%であったが、平成20年度以降は約5%に減少した。摂食機能療法の算定は、平成17年度28件、平成18年度431件と徐々に増加し、平成27年度には583件となった。②対象患者440例のうち、経管栄養から栄養補給を開始した患者は48例、うち経口摂取可能となった患者は8例、この内、退棟時経口摂取のみとなった患者は3例、経管栄養と経口摂取の併用は5例であった。また、経管栄養から経口摂取開始に移行するまでの期間は0~16日(平均6.6日、中央値4.5日)であった。

【考察】NSTによる早期経口摂取に対する継続的な取り組みは、急性期医療のあり方のひとつとして有用と思われる。このようなシステムを継続するためには、人材の確保が必須であり、スタッフが交代してもケアの質を担保するための教育体制を整えることが課題と考えられた。